

令和4年度 江戸川区立第三葛西小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	「智(ちえ)・仁(おもいやり)・勇(ゆうき)」 智・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成 社会の変化に主体的に対応し、貢献できる児童の育成	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	「夢や希望を育てる学び舎としての楽校(学校)」子どもにとって通うことが楽しい学校 智:深く考え進んで実行する子 仁:思いやりのある子 勇:明るくたくましい子 「厳しく教え 温かく育てる」「信じて接し 愛して育てる」
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>学校の取り組みに対し、「知」87%、「徳」87%、「体」89%の肯定的な評価をいただいた。 「学校での学習や生活を楽しみに登校している」91%は、目指す児童像に近づいている。 <課題>国の学力調査や都の意識調査の結果から、算数の基礎学力向上に向けた授業改善を昨年度に継続して取り組む。体力調査の結果から体力向上に向けた取り組みを積極的に行う。 すすんで挨拶ができる児童、善悪を正しく判断し、よりよい生き方をしようとする児童を育てる。		

教育委員会 重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた 改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ 学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・各教科等の連携教育プログラムによる連携の充実	算数研究授業 年7回 放課後補習教室2～6年 年間150回 eライブラリアドバンス 江戸川っ子 study week 年間3回	校内研究と関連した算数科授業理解度70% 東京ベータ診断テスト正答率80% eライブラリアドバンス 江戸川っ子 study week 実施率80%	A	B	算数では、校内全体で「問題」「計画」「実行」「話し合い」「まとめ」の流れに沿って授業を展開することで、各学年とも児童が見通しをもって学習に取り組んでいる。東京ベータ診断テストの結果、算数科の授業理解度は、個に応じて既習事項の定着を図っていく。eライブラリアドバンスは、江戸川っ子 study weekをはじめ、日常的に授業や家庭学習など積極的な活用の機会を増やし、学習習慣の定着につなげていく。	A	児童が見通しをもって学習に取り組めるように授業を展開していることは、落ち着いた学習態度につながっている。全校で共通した取組は、学年が上がることで積み重ねられ、学習効果が期待できる。自分自身の課題を把握させ、課題解決に向けてその方法や取り組み方を指導することを通して、家庭学習の定着を図ってほしい。	東京都の授業改善推進拠点校として、全国学力調査とも意識調査との関連を図り、学力向上に向けた授業改善の更なる推進をしていく。家庭学習の取組も検討していく。放課後補習教室との連携を強化し、個に応じた指導を充実させていく。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	全校運動遊びの実施 週1回 朝遊びの励行 週2回	体力テスト合計点平均 各学年昨年度5%増 休み時間の運動量10%増	A	B	朝遊びの意識付けや全校運動遊びの取り組み方を工夫したことにより、休み時間の運動量は10%以上増えている。今後とも体を動かすことの楽しさを感じさせ、運動意欲の向上につなげていく。各学年においても外遊びを積極的に奨励し、運動量の増加に向けて意図的に取り組んでいく。	A	いろいろな場面を通して体を動かす楽しさを感じて、自ら運動に取り組む姿勢を養ってほしい。また友達とともに活動する機会を多く設定するなどして、声をかけ合ったり、励まし合ったりして互いに体力を高めていけるとよい。	全校運動遊びなど、日常の運動への取り組みと体育科授業との関連を図り、同じ運動内容を継続して経験できるように計画する。それぞれの運動の目的を児童に伝え、運動内容への意識を高めていく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科「読む」の活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめて表現する方法の指導、朝読書と1単位の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	総合や他教科と関連した図書を活用した探究的な学習 年間1課題以上 区内公共図書館との読書科連携授業 年間3回以上	図書資料による情報収集及び活用能力の会得80% 国語単元に関連するなど、目的をもった読書をする児童80%	A	B	朝読書、教員や図書ボランティアの読み聞かせを通して、子どもたちは読書に親しんでいる。子どもたちが情報収集をするうえで、自主的に図書資料を活用することはまだ少ない。他教科と関連させて、単元計画にあらからじめ調べる手段としての図書資料活用時間を設定するなど、さらなる活用を図っていく。	A	読み聞かせによって、子どもたちの読書の幅が広がり、より多くの本に出会う機会となっている。それぞれの学年に応じて、さらに読書を充実させ、本に接する場面を増やしてほしい。	読書や読み聞かせの時間に、図鑑や百科事典など、課題を調べるための本を紹介するなどして、関心を広げていく。生活科や社会科、総合的な学習の時間において、図書資料を活用して調べる学習を計画し、実践していく。
特別支援教育の 推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	特別支援教育校内研修会 年1回 校内委員会 月1回以上 通常の学級との交流・共同学習 学期1回 障がい理解教育 年1回(4年)	通常の学級の支援を必要とする児童の対応・共通理解の徹底 交流及び共同学習による満足度80%	A	A	個々への対応や支援について、共通理解を図りながら取り組んでいる。同じ対応や支援によって児童の安心感につながっていく。 特別支援学級と行事や日常の委員会活動、クラブ活動を通して、準備の時間から交流をすることで、互いの理解もさらに深まった。	A	一人一人に応じた指導方法を全教職員で理解して児童に接する体制を今後も充実させ、児童の不安を解消できること、特別支援学級との交流を通して、互いを認め、協力して高め合っていく姿勢を養ってほしい。	特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習は全学年で年間を通して行う。学校行事への取り組みや校外学習の他、各学年の学習内容に合わせて計画的に行う。
	子供たちの健全育成	・いじめ、不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレンサポートチームや生活指導連絡協議会の活用	いじめの把握調査 年3回 教員間での児童の情報共有と支援方法の共通理解 いじめ防止基本方針の周知理解	いじめの把握調査による早期発見・対応の徹底 教員間での情報共有 週1回 特支コーディネーター・スクールカウンセラーによる児童の把握の充実	A	A	いじめの把握調査や日常生活の中での児童の変化を捉え、いじめや児童間のトラブルの早期発見・対応に努めている。同じ学年の教員間での情報共有を常に行い、特支コーディネーター・スクールカウンセラーによる児童の実態把握とともに、区のスクールソーシャルワーカー等も活用し、幅広い視点から児童理解を行っている。	A	より多くの大人の目から子どもたち一人一人を見つめ、小さな変化にも気付くような関係を築いていけること、情報共有によって、子どもたちが安心できる環境を整えてほしい。	授業中だけでなく、休み時間等、学校生活のあらゆる場面において、児童理解、状況把握に努め、軽微な変化も見逃さないようにする。児童が困ったときには相談できる環境を整え、児童理解のアンテナを広げる。
学校と家庭、地域、関係機関との 連携強化	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	学校評価の効率化、適正化を図るための評価項目の整理 児童貸与タブレットによる回答、またはQRコードを読んだら、任意端末からの回答の実施 4つの回答項目に整理 ①教育目標 ②授業の充実や健全育成 ③家庭・地域からの信頼、協力 ④多様な教育活動	各項目「十分満足できる」「ほぼ満足できる」の肯定的な回答80%以上	B	B	・教育活動の充実、改善に向け、学校と家庭、地域、関係機関との連携を強化する。学校ホームページを積極的に活用して教育活動の様子を発信することに努めている。タブレットやQRコードの使用による回答集約は、とても効率的であった。	B	関係機関との連携強化は、保護者や子どもたちの安心、安全な学校生活や日常生活に結びつき、とても重要である。状況に応じて関係機関に協力を仰ぎ、トラブル等の早期解決を図ってほしい。本校の教育活動を知る上でも、学校ホームページの内容を期待している。	学校ホームページの内容の充実や工夫を図っていく。日常の教育活動をより多く掲載し、発信していく。教育に関する保護者アンケートにおけるタブレットやQRコードの使用による回答集約のさらなる工夫を図っていく。	
特色ある教育の 展開	学校における働き方改革プラン	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	会議の効率的な運営 日常的な業務の連携・効率化	全体会議の時間の10分以上の短縮 スクールサポートスタッフ、学年アシスタントの活用の充実による事務関連業務時間の削減 週10時間以上	B	B	電子掲示板や回収板の活用を工夫し、全体会議時間の短縮に努めている。スクールサポートスタッフ、学年アシスタントの活用により、事務関連業務時間の削減につながってきている。	B	スクールサポートスタッフ等による事務業務時間が削減されていることは、働き方改革につながっている。今後も学校サポート人材の活用を充実させ、業務改善に努めてほしい。	スクールサポートスタッフ等の計画的・効果的な活用によって業務改善を積極的に実施し、授業改善や児童理解のための時間をより多く確保できるようにしていく。
	豊かな心の育成	異学年・きょうだい学級による交流活動の実施	全校オリエンテーリング、遊び集会、昔遊び集会他、学年の枠をこえたグループ活動 年間9回	学校評価 問「仁」思いやりの子どもの育成及び、学年12豊かな心を育む学習の項目 肯定的な評価80%以上	A	A	きょうだい学級活動を通して、同学年だけではなく、上学年と交流する機会が多く、感謝や思いやりの気持ちが育ってきている。活動にあたり、事前・事後指導を充実させることによって、児童相互の関係をよりよくなっていく。	A	様々な学年との交流が、子どもたちの豊かな心の育成につながってきている。自分自身や相手を大切にすることが大切。活動にあたり、事前・事後指導を充実させることによって、児童相互の関係をよりよくなっていく。	異学年きょうだい学級活動を年間を通じて行う。学年に応じた役割や行動、取り組み方の共通理解を図り、児童の意識を高めるとともに、児童相互の関係を深めていくようにする。